

## 豊中市立学びの多様化学校のめざす方向性

### はじめに

子どもたち一人ひとりの多様な価値観や学び方を尊重し、誰もが安心して自分らしく学べる環境づくりを実現させるため、豊中市立学びの多様化学校がめざす方向性と、その実現に向けた基本的な考え方を、以下に示します。

### 1 教育目標

#### (1)学校教育目標

自分らしい歩みを重ね、人と人のつながりを大切にして学び合う力の育成

#### (2)めざす姿

##### めざす生徒像

- 新たな学習環境で、自分らしさを見つけ、安心して学び続ける生徒  
～自分の良さや可能性に気づき、学びの楽しさを見つける～
- 小さな挑戦を積み重ね、次の一步を踏み出す生徒  
～一歩ずつ進むことに価値を見い出す～
- 多様な人々と協力し、学び合いながら社会とつながる生徒  
～仲間や地域、社会とともに考え支えあう～

##### めざす学校像

- 子ども一人ひとりのペースと気持ちに寄り添う学校  
～安心できるカリキュラムと環境～
- これまでの経験を肯定的に生かせる学校  
～経験を強みに変える場所～
- 学び方や過ごし方を柔軟に選べる学校  
～「どこで、何を、どのように学ぶか」を自分で選べる仕組み～
- 地域や社会と協働し、つながりを広げる学校  
～仲間や地域とともに学び合う場をつくる～

##### めざす教職員像

- 生徒に安心感を与え、寄り添える教職員  
～信頼と安心を届ける存在～
- 生徒の自己選択・自己決定を尊重し、伴走できる教職員  
～ともに考え、歩みを支えるパートナー～

- 専門性を発揮し、興味を引き出す授業づくりができる教職員  
～学びを広げるプロフェッショナル～
- 多様な学び方や新しい取り組みを柔軟に取り入れ、変化に対応できる教職員  
～挑戦を楽しみ、進化し続ける柔軟性～

## 2 学校づくりのコンセプト

令和6年度、豊中市の不登校児童生徒は過去最多となり、全国的にも大きな課題です。本市では、校内教育支援センターや教育支援センターを中心に、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりを進めてきました。こうした状況を踏まえ、文部科学省「誰一人取り残さない学びの保障に向けた不登校対策 COCOLO プラン」を背景に、生徒一人ひとりに応じた学びを保障する新しい選択肢として「学びの多様化学校」を開校します。

この学校では、子どもが「どこで、何を、どのように学ぶか」を自分で選ぶ環境を整えます。学び方は一つではありません。個別にじっくり取り組む時間と、仲間や地域とつながりながら学び合う時間の両方を大切にします。まずは小さな一步を踏み出すことに意味があると考え、子どもが「やってみよう」と思える安心感のある場をつくります。

さらに、市内の中学校、義務教育学校、教育支援センター（いぶきの創造活動）としっかりと連携し、子どもたちが無理なく学びを選ぶ柔軟な仕組みを整えます。地域や社会とのつながりを広げながら、さまざまな人と協力し、学びを深める機会を増やしていきます。少人数での授業を取り入れ、専門職員とともに、一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな取組みを進めます。

## 3 不登校児童生徒への支援の基本的な考え方

不登校は、子ども一人ひとりの心や体の状態、学校や家庭の環境、人間関係など、いくつもの要因が重なって誰にでも起こりうることです。だからこそ、子どもの気持ちを丁寧に受け止め、子どもが安心できる環境を整え、学び方や過ごし方を選ぶ仕組みをつくり、「自分で選んだ」という子どもの実感を大切にします。

保護者とのつながりも欠かしません。家庭と学校が一緒になって子どもを支える体制をつくります。教職員は、子どもの小さな変化を見逃さず、専門職員や関係機関と協力しながら、きめ細やかな支援を行います。学習のサポートだけでなく、心をほぐす時間や、地域と関わる体験活動も取り入れます。

この学校では、「まずは一步を踏み出す」ことを大切にします。小さな成功体験を積み重ねることで、子どもが自分らしく成長し、社会の一員として自立していくよう、生活面・学習面・人間関係の力を育みます。私たちは、子どもが安心して社会とつながり、未来に向けて自分のペースで歩んでいけるよう、そっと寄り添いながら伴走します。